

会員企業をたずねる

女性の力、女性の声

このコーナーは、会員企業をたずね、物流業界で働く女性社員に業務内容や、職場の取り組み、個人の抱負などを語ってもらうコーナーです。



第20回

ヤマトホールディングス株式会社

ダイバーシティ推進室長

西橋 展子さん

PROFILE

2002年入社。ヤマト運輸株新東京主管支店に配属。半年後、東京支社にて人事を担当。2004年、人事総務部で役員秘書を担当。2006年結婚、2010年から産休・育休を取得。2011年復帰時は人事戦略部にて採用を担当。2014年人事戦略部人事総務課係長。2018年現職に。北海道出身東京育ち。小学2年生の娘さんを持つ。

ライフイベントと社会環境がマッチ

—現在の担当業務について教えてください。

本年5月、ヤマト運輸からヤマトホールディングスのダイバーシティ推進室に異動しました。現在は、昨年当グループで策定された中期経営計画の柱「働き方改革」のもと、研修や講演会の開催、調査等を通じて、社員のワークライフバランスや女性の活躍推進、障がい者雇用などをはじめとした、グループ全体のダイバーシティ推進に取り組んでいます。

—産休や育休、時短勤務をご経験されているそうですね。

産休と育休は2010年2月から合わせて1年2ヵ月間取得し、育休明けは時短勤務を選択しました。子供が小さいときは子育てに重きを置こうと、当時



はマラソンのつもりで10年かけてゆっくり通常勤務に戻る計画をしたのです。初めて経験する仕事と育児の両立に加え、復帰後に異動したため仕事自体に慣れるのにも苦労しまし

たが、仕事のペースを取り戻すうちに仕事への意欲がどんどんわいて、結局10年計画を大幅に繰り上げ、通常勤務に戻りました。

—管理職に昇進されたのはいつですか。

時短勤務を終了して半年後の2014年です。実は、時短勤務を終了するか迷っていたとき、上司から、当時の裁量労働制を活用して通常勤務に戻ることを勧められたのです。仕事の成果を高めれば、周囲よりも労働時間が短いことを気にしなくていいと言われ、気負いなく通常勤務に戻ることができました。その上司に限らず、たくさんの出会いに恵まれました。更なる昇進への資格をとれたのも、当時の上司の励ましがあったから。今の私があるのは、社会環境の変化や会社施策のタイミングが私自身のライフイベントとたまたま一致し、その私に周囲の皆さんが応援や協力をしてくれたからこそだと思っています。

「運・縁・恩」が支えてくれた

—社会人生活において大切にしていることを教えてください。

いまの話にも通じますが、私の社会人生活は、「運・縁・恩」で成り立っていると思っています。入社

半年後で異動となった職場で、人事業務を一から教えてくださった先輩や秘書時代に出会えた役員の方々、アドバイスして下さる上司をはじめ、素晴らしい皆さんに出会えた「運」と「縁」には本当に感謝しています。以前お世話になった方と再び仕事でかかわることも多く、あらためて「縁」を感じることもあります。そして、その「恩」を少しでも返したいという思いが、今の私の推進力。そう考えると、日々の業務にきちんと向き合わなければと背筋が伸びてきます。

—どんな時にやりがいを感じますか。

周囲の皆さんが喜んでくれる、私を頼りにしてくれていると思うと、やりがいを感じますし、期待にこたえたいという思いが強くなります。一時期、その思いが強すぎて仕事を頑張りすぎた時代も(笑)。でも、それも皆さんに喜んでほしいから。また、これまでの経験から、多様性を生かすダイバーシティは私自身のテーマにもなっており、やりがいを持って現職にあたっています。グループ社員の皆さんに働きやすさや働きがいを感じてもらえる環境を目指し、さまざまな施策の立案に取り組んでいます。

—これから活躍が期待されている女性の皆さんにアドバイスををお願いします。

働き方は人それぞれですから、自分自身がどうありたいか考え続けることが大切です。ステップアップ



社内のスポーツイベントにて
(障がいをもつ社員と健常者の社員が
一緒にチームを編成するボーリング大会)

によって、やりたい仕事ができる、仕事がやりやすい、と話す女性も多いです。もちろんリスクや責任を伴いますが、それを上回るやりがいもあると思っています。女性の活躍を後押しする風潮を追い風に、「やってみたい」と思う方は勇気を出してステップアップにも挑戦してほしいですね。

—ありがとうございました。

会社概要

ヤマトホールディングス株式会社

本社：東京都中央区銀座2-16-10
創立：1919年11月29日
資本金：1,272億34百万円(2018年3月31日現在)
代表者：取締役社長 山内 雅喜

【事業概要】

2019年に創業100周年を迎えるヤマトグループの持ち株会社。ヤマトグループは、長い歴史を持つと同時に、1929年に「路線」事業、1976年に「宅急便」事業をスタートさせ、世の中にイノベーションを生み出してきた。2013年からは第3のイノベーションとして「バリュー・ネットワーキング」構想を推進中。現在、中期経営計画「KAIKAKU 2019 for NEXT100」のもと、経営基盤の再構築に取り組んでいる。世のため人のために新しい価値を生み出し、日本、そしてアジアで「社会から一番愛され信頼される会社」になるため、たゆまぬ努力を続けている。

